

大津企業景況調査報告書

(第56回)

平成24年 1月～ 3月期 実績

平成24年 4月～ 6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成24年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
建 設 業	20社	17社	85.0%
製 造 業	10社	9社	90.0%
卸 売 業	10社	9社	90.0%
小 売 業	30社	23社	77.0%
サービス業	30社	24社	80.0%
合 計	100社	82社	82.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成24年1月～3月とし、調査時点は平成24年3月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は足踏み状態が続く

平成 24 年 1 月～3 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、昨年末に持ち直した建設業が再び悪化し、製造業が超円高等の影響で大幅悪化し、卸売業でも悪化した一方、サービス業では改善し、小売業は横ばいで全体では足踏み状態が続いている。

先行き見通しは、円高進行が一段落し、欧州の債務危機への懸念が後退したこと等から、製造業はじめすべての業種で業況はやや改善すると見込んでいる。ただし原油価格の上昇や原発の再稼動が厳しい情勢から電力問題等の不安材料があり、先行き不透明感が残っている。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は製造業、建設業、卸売業が悪化、サービス業は改善

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期▲35 から今四半期▲38 と悪化が続いている。建設業は前四半期に改善したが再び悪化した。製造業は超円高等の影響で大幅悪化し、卸売業でも悪化した一方、サービス業では改善し、小売業は小幅改善で全体では足踏み状態が続いている。

□ 売上 DI（前年同期比）は業況判断と同一

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲32 から今四半期▲33 と横ばい。業種別にみると、業況判断と比例して建設業が悪化、製造業が大幅悪化、卸売業も悪化。一方、サービス業では改善し、小売業も小幅改善。

□ 採算 DI（前年同期比）も業況判断と同一

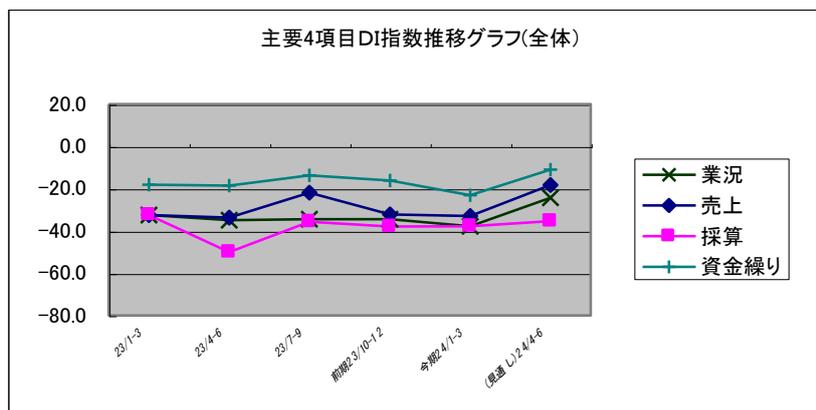
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期も今期も▲38 で横ばい。業種別にみると、業況判断と比例して建設業が悪化、製造業が大幅悪化、卸売業も悪化。一方、サービス業では改善し、小売業も小幅改善。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）はやや悪化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲16 から今四半期▲23 とやや悪化した。業種別にみると、ほとんどの業種で悪化しているが、建設業だけがやや改善した。

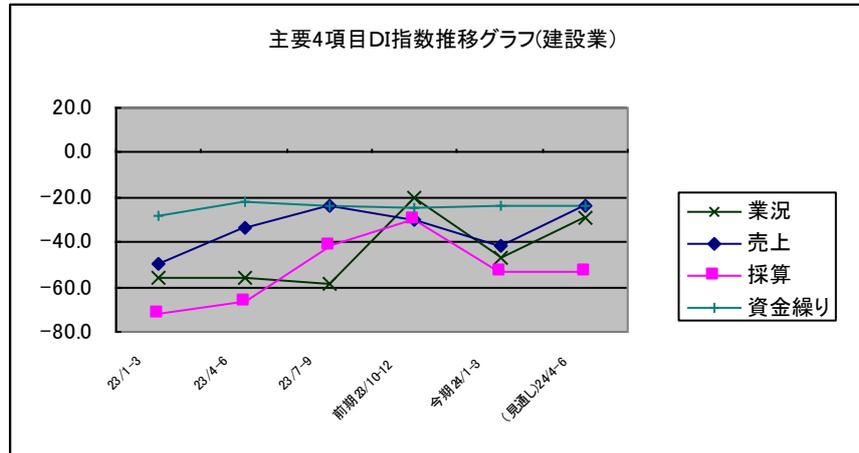
□ 従業員 DI（前年同期比）は過剰感少し強まる

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の▲2 が今期▲5 と過剰感が少し強まった。業種別にみると、製造業、卸売業で過剰感が強まっている。サービス業では引き続き不足感がある。



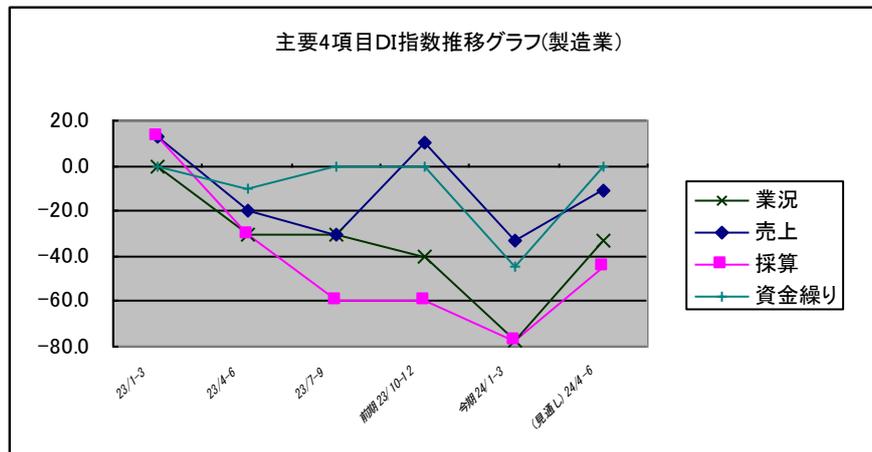
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期は▲20 と改善したが、今期半期は▲47 と再び悪化した。「売上」は前四半期の▲30 から今四半期▲41 と悪化し、「採算」が前四半期の▲30 から今四半期は▲53 と悪化して「採算水準」が前四半期の±0 から今四半期▲35 と赤字になった。「取引の問合せ」も前四半期の▲30 から今四半期▲53 と悪化したことによるとみられる。「資金繰り」も悪化が続いている。



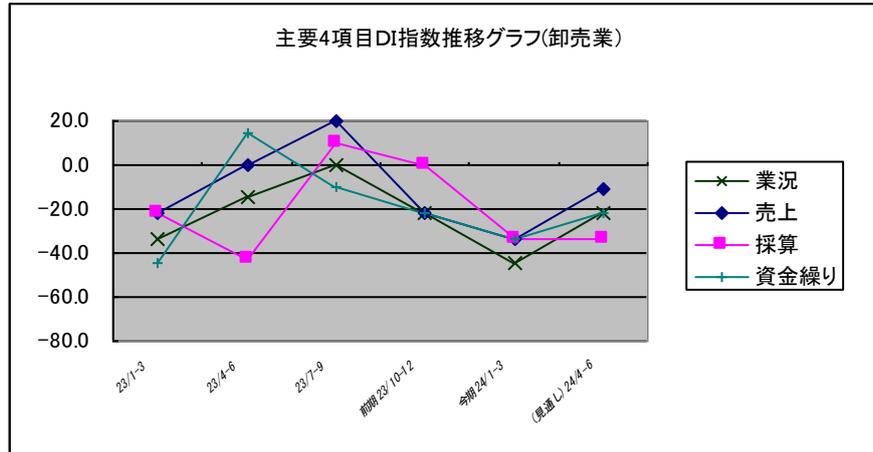
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲40 から今四半期は▲78 と大幅悪化した。「売上」は前四半期の+10 から今四半期と▲33 と減少に転じた。「採算」が前四半期の▲60 から今四半期は▲78 と悪化して「採算水準」で前四半期の+20 の黒字から今四半期±0 となった。「取引の問合せ」も前四半期の▲30 から今四半期▲44 と低調に推移している。「従業員」は前四半期の▲10 から今四半期▲22 と過剰感が強まっている。業況悪化の原因は超円高による国内生産の減少等の影響とみられる。



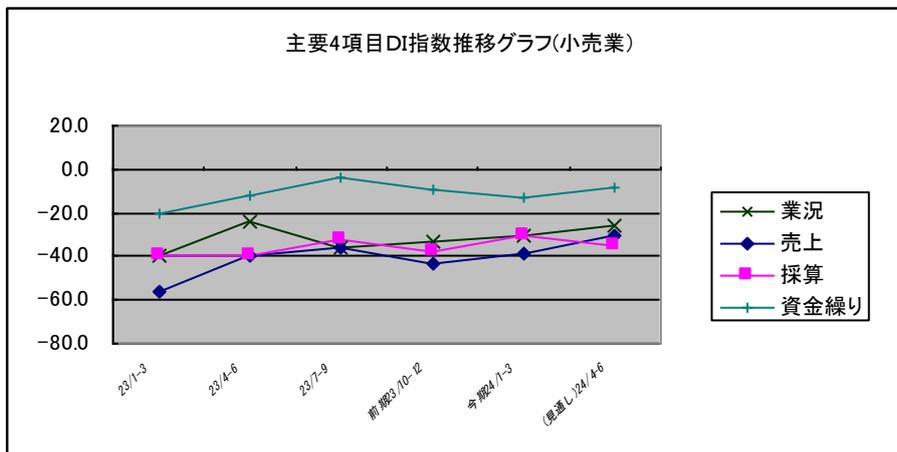
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲22 から今四半期は▲44 と悪化した。これは「売上」が前四半期の▲22 から今四半期▲33 と減少したことに加え、「採算」が前四半期の±0 から今四半期は▲33 に悪化し、「採算水準」が前四半期の+22 から今四半期▲44 と赤字企業が増加したためとみられる。「従業員」は今四半期に過剰感が出てきた。



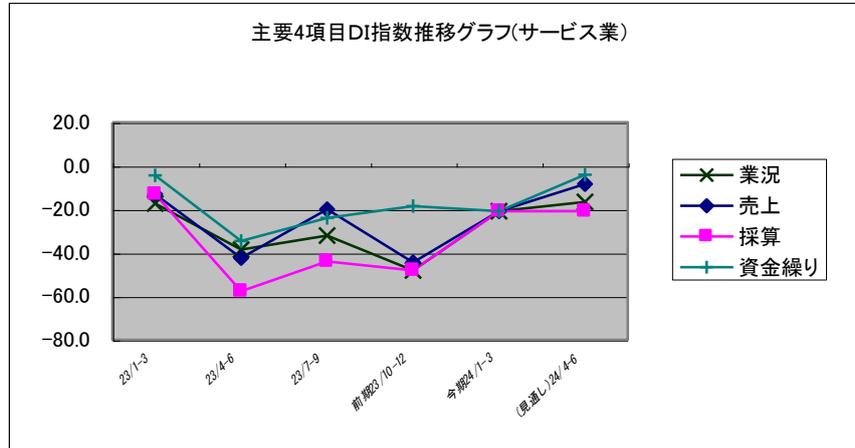
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲33 から今四半期は▲30 と小幅改善した。「売上」は前四半期の▲43 から今四半期▲39 と小幅改善し、「採算」も前四半期の▲38 から今四半期▲30 に小幅改善した。「従業員」は前四半期の▲5 から今四半期は±0 と過剰感がなくなった。



サービス業

DI指数をみると、「業況」は前四半期の▲48から今四半期は▲21に改善した。「売上」は前四半期の▲44から今四半期▲21と改善し、「採算」も前四半期の▲48から今四半期▲21と改善して「採算水準」も前四半期の▲26から今四半期▲17と改善した。「従業員」は不足感が薄まり、他の指標と逆の動きとなっている。



3ヵ月後の見通しについては、円高進行が一段落し、欧州の債務危機への懸念が後退したこと等から、製造業はじめすべての業種で業況はやや改善すると見込んでいる。全体の「業況」は、横ばいであった今四半期の▲38から▲24と改善する見通し。「売上」は15ポイント改善して▲18、「採算」は3ポイント改善して▲35の見通しである。

業種別に業況見通し判断をみると、製造業が45ポイント大幅改善して▲33、建設業が18ポイント改善して▲29と見込んでいるほか、全般に改善するとみている。ただし、原油価格の上昇や原発の再稼動が厳しいことから電力問題等の不安材料があり、先行き不透明感が残っている。

3ヵ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前四半期の21%から5ポイント減少して16%となった。建設業が13ポイント減少して12%、製造業が8ポイント減少して22%、卸売業は33ポイント減少してゼロになった。小売業は7ポイント増加して17%、サービス業は2ポイント増加して21%になった。投資企業の投資内容の割合は更新投資が33%で最も多い。投資方針は、「今後の景気に拘らず計画通り」とする企業が前四半期から10ポイント減少して今四半期46%になったが「景気動向により見直す」の39%より多い。足元の景気は足踏み状態にあるものの、今後改善することを見込んでいるものとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

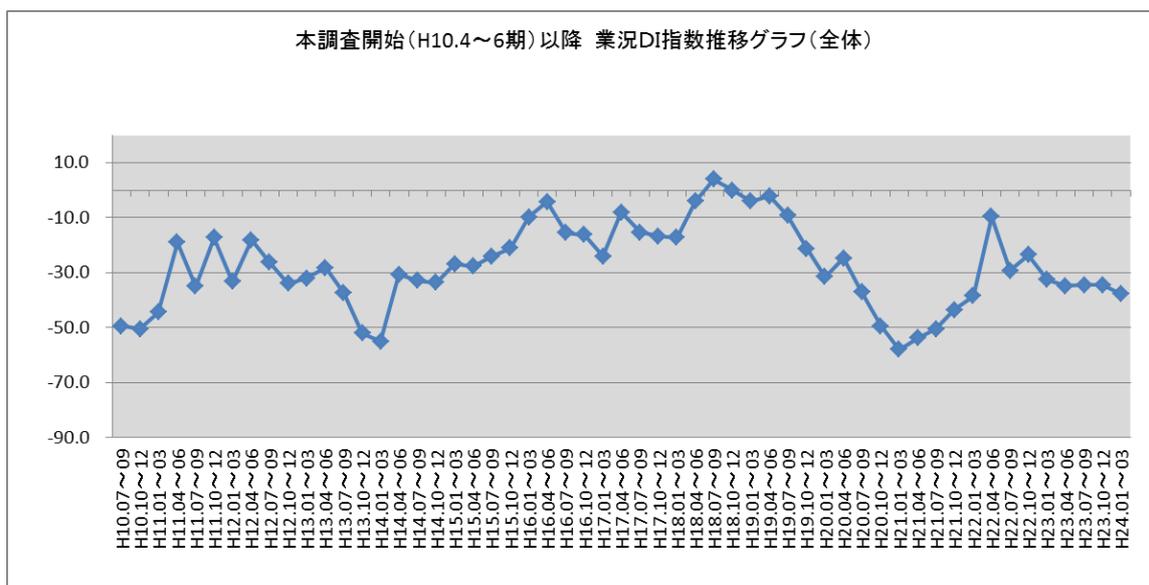
今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は8社であった。

- ・ 仕入れ単価上昇のためつなぎ資金の借入れをお願いしたい。
- ・ 不況により一般家庭からの発注が少なくなった。
- ・ 脱原発により原発再稼働がままならず火力発電に頼らざるを得ない状況にあつて燃料費がかさみ電力会社は軒並み赤字に転落していて特に原発比率の高い関西は大変な状況であります。今の民主党政権は、国の根幹にかかわるエネルギー問題に方向性を示せず原発再稼働についても決断できず迷走しています。そういった現状から当社が関わる電力関連の工事は先行きが見えない状況が生まれていてこのままいけば来期は大変な事態になると思われる。
- ・ 消費税の値上げで国会は論議しているが「幅広く公平負担」と言っているが実際に払うのは我々物品販売者である。しかも零細な企業が預かって支払わなければならない。今でも消費税5%を預かっていても5%を預かっているかいないかわからない。10%以上になると消費税が負担となり厳しい状況になる。
- ・ 社会が政治がといっても目の前の状況は変わらない。氷の上を歩く様に「コロバナイ」こと、そして体を冷さない事、タイミングが合えばいつでも走りだせる様に準備する事、このちょっとした努力の差が結果につながる時代と思います。
- ・ 子ども手当等出さず昼食代を出した方が良いと思う。税金等軽減出来る様お願いします。
- ・ 国に成長経済を目指して欲しい。企業も苦しいのに負担ばかり増える。再分配の率を見直して欲しい。(もっと) 大きなところから取って欲しい)
- ・ 滋賀県知事の「流域治水」ダムから県民目線による治山治水は県内の小規模建設業及びコンサル会社等にとっておおきな期待が持てるのではないかと。

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 37.8	▲ 24.4	▲ 32.9	▲ 18.3	▲ 37.8	▲ 35.4
建 設 業	▲ 47.1	▲ 29.4	▲ 41.2	▲ 23.5	▲ 52.9	▲ 52.9
製 造 業	▲ 77.8	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 77.8	▲ 44.4
卸 売 業	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 33.3
小 売 業	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 39.1	▲ 30.4	▲ 30.4	▲ 34.8
サービス業	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 20.8	▲ 20.8
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 24.4	▲ 17.1	▲ 43.9	▲ 37.8	▲ 4.9	▲ 2.4
建 設 業	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 52.9	▲ 58.8	▲ 11.8	▲ 5.9
製 造 業	0.0	22.2	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 22.2	▲ 22.2
卸 売 業	▲ 44.4	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 44.4	▲ 11.1	▲ 11.1
小 売 業	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 34.8	▲ 30.4	0.0	4.3
サービス業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 45.8	▲ 33.3	4.2	4.2
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し	1-3月期 動向	4-6月期 見通し
全体	▲ 23.2	▲ 11.0	▲ 7.3	▲ 7.3	▲ 3.7	▲ 4.9
建設業	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 11.8	▲ 5.9	5.9	11.8
製造業	▲ 44.4	0.0	11.1	▲ 11.1	11.1	▲ 11.1
卸売業	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2
小売業	▲ 13.0	▲ 8.7	8.7	4.3	8.7	4.3
サービス業	▲ 20.8	▲ 4.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>